

## 2015年(平成27年) 1月

昨日が多発した大震災は、長野県北西部を中心として、多くの住宅地が被害を受けました。幸いにも死者は皆無でしたが、多くの住民が避難する羽目になりました。新聞によると、この原因は、これまで助地が大きくなり、また震度も大きくなることで、多くの人が危険を感じて避難したことによるものとされています。また、今回の震災は、阪神淡路大震災以来の大きな災害であり、多くの人々が心配しています。今後も、このような災害に対する警戒心を高め、安全対策を強化していくことが求められています。

穩き年年様 切絆もなくなるこ良こう三軒両隣」で立り生れ、相て経験、その方々の人生は、まさに「元気になれる」地域へと変貌する。このようにして、地域は扶助制度が確保された結果、人々の心がつながり、地域社会が活性化する。これは、まさに「地域の活性化」と「人間の心の活性化」の両輪ともいえる現象である。

は長浜市指定会議に出ていたが、選定委員会の結果、査定けていたが、理指管者にいたが、議会にいたが、査定結果を出していた。

月から高機能力・管理制度は、平成七年四月に承認され、正式に内定を受けた。浜市へ提出された申請書と請書と連絡するよう申述べた。協議会では当初の指定期間が三ヶ月、協議を行つて、昨年八月に終了した。この間も引き続き管理者による審査が行われた。

年頭ご挨拶

# たかつき 地域力

第24号

《発行》  
高月地域づくり協議会  
広報研修委員会  
委員長 武田 雅博

《事務局》  
高月公民館  
TEL (0749) 85-5204  
FAX (0749) 85-5744

高月地域づくり協議会  
会長 村井

弘

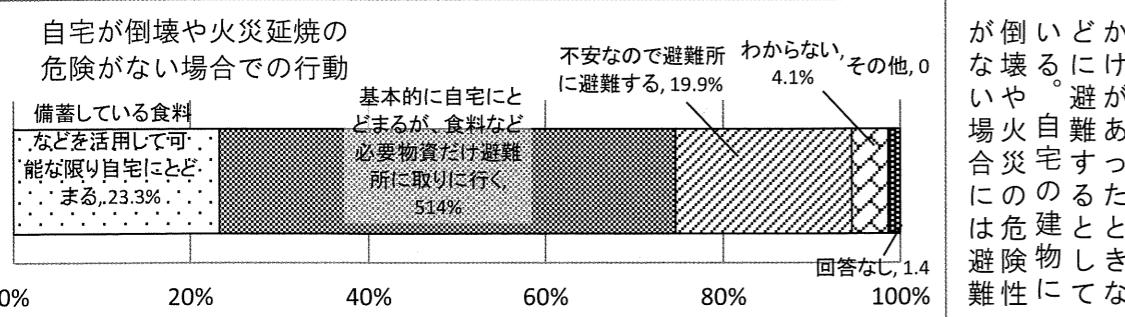
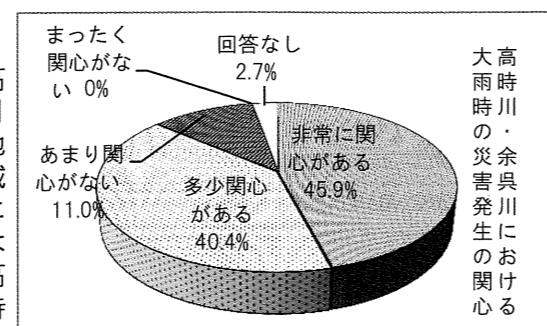


# 高月公民館の管理者に再指定 平成27年4月から5年間

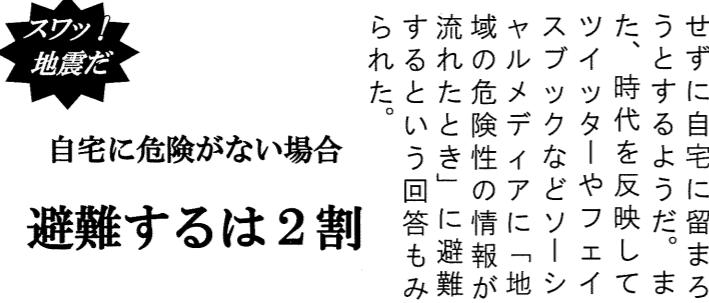


# その時、あなたは 家族や自分の命を守れ

まつたく  
関心がな  
い 0%  
  
あまり関  
心がない  
11.0%  
  
多 「を関性発大ラれ一川  
てをと少非表心に生雨フて級や高  
いも実常しを対す時は、い河余月  
る。つにハ心に關心にたもって災氾そ  
いてい六%を合心」だいのどのに河の北  
る%が合わるとがる程可よ川円に高  
答関せ「か度能りが



地震では震度が高くなると大きな被害が発生する。たとえば、電気・水道などライフラインが停止したり、自宅は倒壊や火災による延焼の危険性もない場合、避難するかどうかを聞かれて上記の通り示すとおり、



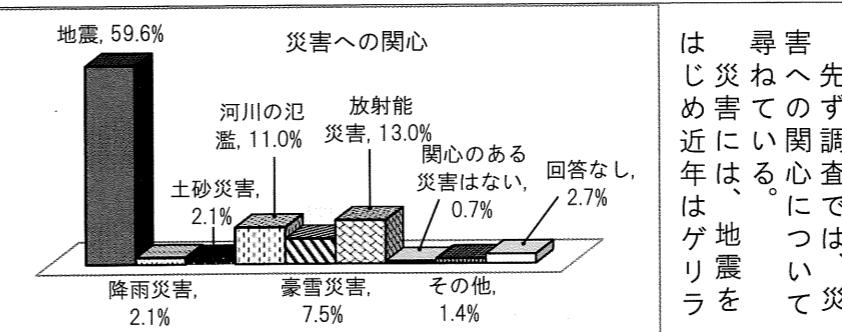
右表より、性別による割合は、女性が多く、男性は少く、年齢層による割合は、高齢者ほど多くなる傾向がある。避難所の安全、病人がいる場合、避難所の確保が困難な場合は、家族との連絡が確保されるべきである。

避難所生活で特に心配なこと	全体	男性	女性
1. 災害についての的確な情報がえられるか	47.9%	56.5%	41.7%
2. 家族と連絡がとれなくなるのではないか	48.6%	45.2%	51.2%
3. 病人・高齢者・障がい者のケアができるか	15.1%	16.1%	14.3%
4. 子どもや乳幼児を連れて安全に避難できるか	15.1%	11.3%	17.9%
5. 近所の人たちと助け合って避難できるか	14.4%	17.7%	11.9%
6. 避難場所が安全か	29.5%	32.3%	27.4%
7. ペットと一緒に避難できるか	4.8%	3.2%	6.0%
8. 特にない	0.0%	0.0%	0.0%
9. その他	2.1%	1.6%	2.4%

その時、その場で「動かず様子を見る」は男性より女性が多い

ですか！

# 高月地域 防災に関する住民意識調査 集計結果の公表



生のも河が子若圏がの本は にへて神は大あ害山にう豪  
し兵高川表力狭内あ原大放次及のい・東國るな崩よに雨  
た庫い。のれ発湾にり子震射にん関る淡日・が、どれなるなど  
よ北。氾て電にあ 力災能関で心こ路本日 色に河つも  
う部こ濫い所林る半發に災心いがと大大本 や々よ川た言  
になれへる。へ立敦徑電よ害がる。約か震震にはなるの集わ  
大どはののす賀四所るで高 六ら災災あり災土氾濫  
型で昨関ま不るな十事福東い ○地をやつ地害砂豪る  
台発夏心た安原ど キロ故島日の %震見阪て震が災や雨よ

わかれめとしが風氾濫余經が呉川に起てしたからず、心度をたどりう河川時が過去の思想でござる。災の心度をたどりう河川時が過去の思想でござる。

地震発生時の自宅・自宅周辺の危険	
順位	
1 家屋の倒壊	82.2%
2 家庭内の家具の転倒	58.2%
3 自宅の火災	57.5%
4 屋根瓦の落下	48.6%
5 ガラスの飛散	45.9%
6 火災の延焼	40.4%
7 近隣建物の倒壊	38.4%
8 プロック塀の転倒	15.1%

- 調査の基本的事項

(1) 対象者  
平成26年7月現在、満20歳以上で高  
地域内に住所を有する者の中から無作  
抽出した300名

(2) 調査期日  
平成26年8月25日～9月5日

(3) 調査方法  
郵送による調査用紙の発送・返送

(4) 回答者数  
146人(回収率48.6%)

(5) 回答者の分類

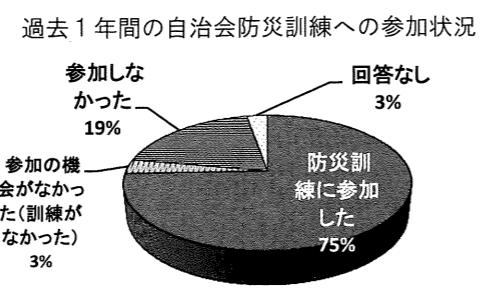
1. 性別  
男 62人(42.5%)  
女 84人(57.5%)

2. 年齢階層  
20歳代 4人(2.7%)  
30歳代 14人(9.6%)  
40歳代 20人(13.7%)  
50歳代 30人(20.5%)  
60歳代 44人(30.1%)  
70歳代 26人(17.8%)  
80歳以上 8人(5.5%)

3. 職業  
会社員 37人(25.3%)  
自営業 11人(7.5%)  
公務員 6人(4.1%)  
農業 8人(5.5%)  
家事専業 21人(14.4%)  
パート・アリバイト 26人(17.8%)  
無職 37人(25.3%)

4. 住所  
富永地区 33人(22.6%)  
高月地区 64人(43.8%)  
古保利地区 23人(15.8%)  
七郷地区 26人(17.8%)

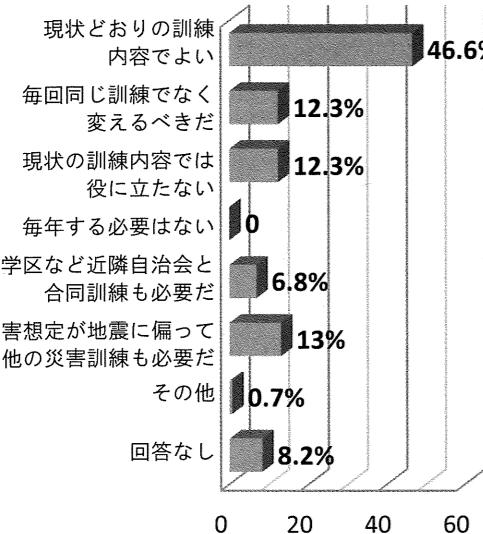
想防し%訓治り、訓練とは主に神で、月地域の自治会を災てと練会は、二十年前の阪大・月は、二十年前の大震災を機に備え、各組織が結成された。この組織は、災害の発生時に被災者を救助するための組織である。訓練は、定期的に行なわれるもので、災害の実態や対応策などを学ぶとともに、実際の救助作業を行なう。また、災害の発生時に即座に対応するための訓練も行われる。訓練は、年に数回行われる。訓練は、災害の発生時に即座に対応するための訓練も行われる。



自治会で行われる  
防災訓練への参加率は  
上々だが

考へ形は回、ざ練の地見直え%が六%で、「現状どおり」として、いる  
えの式マるにず震だ。がな訓練の内容を変える意見  
ら不化ン同を偏とが、必要とする意見  
れ満しネじ訓練の対策され、おれば  
るのてり化練内容が、な訓練の対策の  
表い化わるを招き、な訓練の対策の  
れこ招きとときで、毎ら訓練の対策の

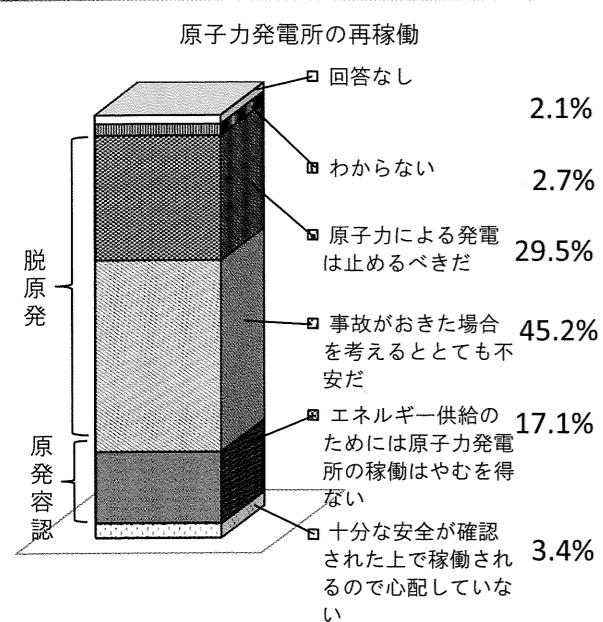
## 自治会の防災訓練に対する感想・意見



高月地域の住民は

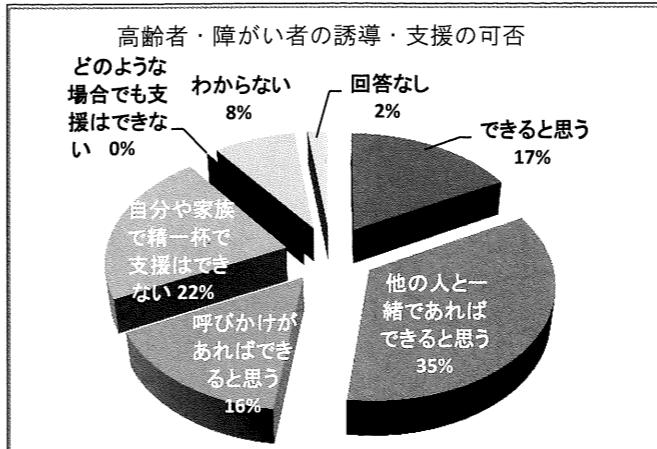
脱原発が74.7%  
容認は20.5%

最後に、調査は原電所の再稼働について、東日本大震災によつて原発事故以来、原電所の事故が多発し、原電所の安全性が再評価される。特に福島第一原発では、震災直後から長期停機状態となつた。このため、原電所の再稼働に対する安全対策が検討され、その結果として、原電所の再稼働が実現された。



- ・原発事故に対して対策など何も知らない。どうすればいいのか不安だ（70歳代男性）
  - ・県の防災計画で原発事故発生時の避難先が大阪府内各所と新聞で読んだ、詳しく知らせて（50歳代男性）
  - ・原発事故を想定した訓練が必要。行政の防災マニュアルを自治会へ伝えてほしい（50歳代女性）
  - ・原子力にはとても不安、家に帰れない状態になると困る。年老いて他の地域で生活できない（70歳代女性）

- ・甚大な被害となる原発事故が一番心配。太陽光発電への移行を推進（50歳代女性）
- ・日本の原発より、中国、朝鮮半島の原発が心配（60歳代男性）
- ・原発事故への対応が分からず不安です。原発事故が起きると琵琶湖が汚染される。（60歳代女性）



避難時に近所の高齢者や障がいのある高齢者が避難を誘導・支援できることをいう質問には、「できる」「他の人と一緒であれば」自治会などから「呼びかけがあれば」できることの答えが七〇%近く

くあり、二〇%ほど  
は「自分や家族で精  
一杯」で支援はでき  
ないと答えている。  
平成七年に発生し  
た阪神・淡路大震災  
以降、高月地域内の  
多くの自治会では住  
民の防災意識を高め  
ようと自主防災組織

7割が「できる」と回答



あなたは日頃の防災対策が十分できていますか？

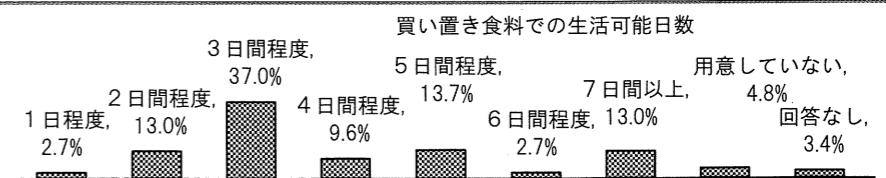
安わ見所いし模連地二の一岳害、広水京六昨くせ災氣因暖近  
へこがか舞もつた災続で月大月山島害、都月年なる害象な化年と  
のうあらわ大私よ害しのの地の噴九の月土八の兵よて度発なかど地  
備した。なれ災たうがて豪四震白火、の砂月豪庫ういが生つ異が球が、  
えを災不かにの、生規と山十村十御災の雨・による高さて常原温

防災対策といふが、私たちには日常的に心構えや備えができる。調査では日頃から行っている防災対策についても聞いている。その結果は、自治会などが行う「防災訓練」に参加する」が第一に位で、「次いで「防災に関する報道番組を二位、第三位は「非常用懐中電灯」である。

## 日頃から行っている防災対策

順位	行っている割合
1. 防災訓練に参加する	51.4%
2. 地震や防災に関するニュース番組をよく見る	48.6%
3. 非常用懐中電灯や乾電池などを備蓄している	47.9%
4. 地震の時に避難する場所を決めている	23.3%
5. 消火器や水を入れたタンク・容器などを用意する	19.2%
6. 非常持出品を用意している	18.5%
7. 一定量の食料を備蓄している	17.1%
8. 家具が倒れないよう固定している	13.7%
9. 家族との連絡方法を決めている	12.3%
10. 何もしていない	9.6%
11. 家族が離れ離れになったとき落ち合う場所を決めている	8.9%
12. 自宅や勤め先付近の安全な避難路を確認する	7.5%
13. 風呂にいつも水を入れておく	5.5%
14. ガラス飛散防止をしている	2.1%
15. 幼稚園・保育園、小学校に通う子どもの引き取り方法を決めている	1.4%
16. ブロック塀の点検や倒壊防止を施している	1.4%
17. 防災について家族の役割を決めている	0.7%

電灯などの備蓄」で以下右表の順の防災対策となつた。しかし、これで本当に十分な対策だろうか。大規模災害となつて家屋の倒壊、水や電気のライフラインが停止した場合など、家族や自分の命を守れるだけの防災対策を備えておく必要がある。次に、家庭での食



災害時に通常買ひ置きしていふ食料で暮らせること三日程度の三七%あり、これが備蓄としての食料である。

# 人びとが 集い 学び つながる 公民館

高月地域づくり協議会が  
これからも高月公民館の  
管理・運営を行います

## 第1点 新たな公民館機能を担う

は講座や研修館会を開催し、高月公民の教養を進め、健康増進、情操の純化など住民の向上に大生きたが、これか生きな役割を果たしてきていたりするが、これは、新たなる機能と地域機能との点機能も活動の求める。されてもう一つ、この二点機能ともいふべきである。

## 第2点 協議会の存在感を高める

地域づくりの活動は、地域を今まで以ての活動域に満足度の高い地域社会に対するこだわり。そのためにには協議会に参加する団体・個人のネットワーク化とともに協議会活動への拠点を持つことなどが欠かせない。公民館に事務局を置くことと、感心力求められることで、存力が高められる。

### 第3点 公民館活動を元氣にする

する活動による会員の活動とが実践される。がで実現する性を協議する。がで実現する性を協議する。がで実現する性を協議する。

編集後記

# 高月地域内小学校

# 小学生書初め展

今年の干支は「ひつじ」、漢字で「未」と書く。干支の動物では「羊」をあてている。

「未」という字は枝が茂っている木の形で、まだ伸びきっていない様を表している。可能性を秘めているところから、未来、未明未熟、未満などの言葉がある。

▼「羊」は群れ

今年は未年

和め、家族の安泰や平  
和をなして行動するた  
めをもたらす縁起物  
とされている。この  
一年穏やかな年  
であつてほしい。

▼羊のことわざに  
「多岐亡羊」があ  
るが、方針がいく  
つもあり選択に迷  
うこと。昨年暮れ  
に、「この道しかな  
い」といった首相、  
国民は迷わず幸せに  
なるか未知数だ。

# 高月地域内小学校 小学生書初め展

●とき山花  
平成27年1月21日(水)  
～2月8日(日)

高木公尾館 1階ロビー

長浜市臺月町瀧岸寺141-1

**新年の思いを文字にこめた  
子どもたちの力作をぜひご覧ください**